

## 令和4年度第1回庄原市学校・警察連絡協議会兼庄原市生徒指導主事等研修会

開催日：令和4年6月28日（火） 開催場所：庄原市ふれあいセンター集会室

参加者：庄原警察署、北部子ども家庭センター、庄原警察署管内少年補導補助員連絡協議会、庄原市主任児童委員、庄原市内県立高等学校、庄原特別支援学校、庄原市内小・中学校、広島県教育委員会、庄原市児童福祉課、庄原市教育委員会

広域化、低年齢化する児童生徒の問題行動及びいじめ問題等について、学校と警察、関係機関等が組織的な連携を深めることを通して、児童生徒の問題行動及びいじめの未然防止を図ることを目的とし、研修会を行いました。

### 【講話】 「少年非行の現状と課題について」

庄原警察署 生活安全刑事課長 原本 勇

広島県内の非行少年総数は減少傾向にあり、令和3年度は令和2年度と比較すると131人（16.2%）減少している。庄原市の非行少年総数や不良行為少年総数は減少しているものの、人口等水準の市町と比較すると高い水準で推移している。インターネット上のトラブルなどについては、早めに相談してほしい。また、防犯意識や規範意識の向上のため、昨年度から取り組んでいるジュニアポリスを今年度は拡大している。このことにより、いじめや特殊犯罪の防止につながると考えている。



### 【講話】 「児童虐待の現状と関係機関との連携について」

広島県北部子ども家庭センター 相談援助第一課長 勝部 るみ

全国的に児童虐待は増加傾向にある。広島県内の児童虐待の相談件数も増加傾向にあり、北部地域でも同様である。児童虐待の相談は学校や警察からも多く、関係機関と連携した対応が重要となる。程度が軽いと思われる事案でも、虐待行為は連続・加速しやすいため、早い段階で情報を共有し、対応することで重症化を防ぐことができる。また、早期発見により、支援方法も多様に設定できる。通告は、子供だけでなく、保護者や家族も救う行為である。



### 【実践発表】 「組織的な生徒指導体制の確立に向けて」

庄原市立庄原小学校 生徒指導主事 吉岡 欣哉

庄原小学校では、チーム庄原、居場所づくり、絆づくりを3本の柱として、取組を行っている。いじめを積極的に認知し、いじめに苦しむ児童を0人にしたい。「授業が最大の生徒指導の場」ということを、すべての教職員で確認し、生徒指導の三機能を位置付けた授業改善に取り組んでいる。また、児童会が中心となり、現在の学校の課題を考え、その課題に対してどのような対応策があるのか、どの委員会が中心になって課題の克服を図るのかなどを協議している。



### 【講話】 「庄原市における生徒指導上の諸課題の現状と課題について」

庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 福田 和宏

全国及び広島県の生徒指導上の諸課題と比較しながら、庄原市の生徒指導上の諸課題について説明した。不登校児童生徒数は全国的にも増加しているが、本市においても同様の傾向にある。不登校の未然防止のための魅力ある学校づくりの推進と関係機関との連携が重要である。

### 【指導・助言】

広島県北部教育事務所 教育指導課 指導主事 須山 雅弘

特別支援教育の視点を踏まえ、個に応じた指導の充実を図る。いじめ問題については、「いじめられた児童生徒を守り抜く」という決意のもと、組織的に取り組む。また、不登校児童生徒について、ICTを活用した学習支援や「SCHOOL “S”」「広島 LEARN」などを積極的に活用していただきたい。

### （事後アンケートより）

- ・虐待に至る前に、気になる段階で適切に支援を行うことが大切だということを改めて感じた。関係機関と連携し、気になる児童生徒がいた場合には、速やかに対応したい。
- ・SNS を使ったいじめや犯罪に巻き込まれるケースが増えてきているので、パソコンや携帯電話などの使い方をもう一度確認したい。
- ・児童生徒主体の児童生徒会や委員会活動を行うことで、児童生徒の「自分たちで学校を変える」という気持ちを育てることができるとともに、他の児童生徒も学校に行くのが楽しくなるような取組を考えられており、夏休みまでには本校でも取り組んでいきたい。